



TOCOM

2026

8月号

トヨサークル

手をつないで明日をつくろう

No. 543

相互信頼・協力で育む 技術と人財

株式会社トヨテック
執行役

坂田 拓哉



「技術継承と人財教育」について、日頃感じていることをお伝えします。

人財教育において指導する側に求められるのは、相手の「伸びしろ」を見極めて育てる視点です。伸びしろがある人とは、今の自分の立場で何が必要かを「自主的に考えて動ける人」だと考えています。指導側は、チームのために何ができるかを常に考え行動できる人財を育み、そのモチベーションを維持しながら、相手を信じて結果を出させることが重要になります。

同時に、教わる側も自身の成長を戦略的に捉える必要があります。等級ごとに求められる「仕事のやり方（コンセプチャルスキル）」「人とのかかわり方（ヒューマンスキル）」「専門・技術（テクニカルスキル）」のバランスは異なります。今の自分に何が必要かを意識して業務に向き合いましょう。特に若いうちは、まず専門技術をしっかりと身につけることを念頭に置いてほしいと思います。

そして何より大切なのは、「楽しく教え、楽しく学ぶ」という姿勢です。技術やノウハウの継承は、双方向のコミュニケーションがあって初めて成り立ちます。指導する側も教わる側もワクワク感と思いやりを持ち、高め合える環境を作ることが、組織全体の力となります。

指針である「楽しい職場づくり」の根幹はここにあります。互いに成長を楽しみながら、強固な技術と人財を次世代へ繋いでいきましょう。

技術は人から人へ —挑戦がつなぐ、 未来を創る最強コンビ



製造技術部 光学エキスパート

設備技術部(入社2年目)

新入社員研修での出会いを機に、〇〇さんの言葉に惹かれて技術者としての第一歩を踏み出した〇〇さん。

年齢差40歳の二人は、まさに“技術継承の理想形”。教える側の想いと、育つ側の行動が重なり、次の世代へ技術が受け継がれていく姿が見えてきました。

知る・分かる・出来る・教える — 技術継承の4ステップ 〇〇さん

〇〇さんが若手育成で大切にしているのは、「①知る→②分かる→③出来る→④教える」という段階を着実に踏むこと。自社の技術だけを習得しても、多岐にわたるケースへの応用には限界がありますが、「好奇心」と「行動力」に深い学びがあれば、技術者としての発想や応用力が豊かになり、技術対応の幅も広がります。考えが柔軟なうちに多くの経験を積んでもらい、能力を高めてもらうことが重要だと話します。また、若手に求めるのは「やれない理由」から入らないこと。失敗を恐れず、まずやってみることで見えてくるものがあり、その積み重ねが達成感や自信につながるといいます。〇〇さん自身も、若手の背中を押すために、プライベートの様々な挑戦を資料にまとめ職場で紹介するなど、「やろうと思えばできる」という感覚を伝えようとしています。

不動エンジンが動き出した瞬間、 技術者としてのスイッチが入った 〇〇さん

〇〇さんが配属後、最初に取り組んだのは、不動エンジンを分解し、原因を探り、修理して再び動かす実習でした。試行錯誤の中で、機械の仕組みを理解する面白さと、自分の手で動かせた時の達成感を実感しました。一方で、段取り不足で分解を進めてしまうなどの失敗も経験し、原因を探る視点や事前準備の大切さを身をもって学んだと振り返ります。

そして仕事で学んだことが趣味にも広がり、自ら小型バイクを購入し、エンジンを分解してボアアップまで挑戦。仕事が趣味を育て、趣味が仕事への興味を強くする——そんな好循環が生まれていきました。〇〇さんは〇〇さんと出会い、どんなことにも興味を持って挑戦することで新しい発見や次への学びを得られることを実感し、人生そのものが以前よりも楽しくなったと語っています。



中国出張で広がった視野とつながり

今回の出張では、研磨工程の中身を知ること、実際に作業を体験すること、現地スタッフとの関わり方を学ぶこと、環境への適応力を身につけることなど、〇〇さんにとって技術への理解を深めるだけでなく、国内にとどまらない広い視野と新たなつながりを育む機会にもなりました。〇〇さんが「結果として120点! 困難も楽しみながら頑張っていました。」と評価するように、その一歩は確かな成長につながっています。

若手への期待の言葉 〇〇さん

臆せず挑戦し、成功体験を積み重ねてほしい。その積み重ねが自信となり、次の挑戦につながる。そして、必ず見ている人がいる——その姿勢が評価につながり、できることの幅が広がり、自分を取り巻く環境も変わってくるはずです。

創業の志は、今も人から人へ



1960年、豊川の貸工場から始まったトヨタックの挑戦。その原点には、技術や設備だけではなく、「人が人を育てる文化」がありました。

掲載している写真は、東洋精機工業株式会社の創業期の一場面です。前列左から3番目が諏訪機械製作所の木下社長と、その右横に当社の小野光男。ひとり置いて創業者・小野武喜（光男の父）。中央に写る子どもは武喜の孫にあたる現会長・小野喜明。

ものづくりへの情熱を胸に、未来を切り開こうとしていた当時の空気が伝わってきます。

創業期には、レンズ研磨、機械加工、プレス加工、組立など、現在の事業につながる多様な技術が芽生えました。長野県伊那地域での大和光学工業・大共製作所の時代から、豊川での東洋精機工業へと受け継がれた技術と志。それらは「人から人へ」伝わり、今日のトヨタックの礎となっています。

写真ギャラリー

創業期の技術と風景



昭和30年代 レンズ研磨用具

凹皿にガラス素材をピッチで貼り付け、凸皿で研磨するための自家製治工具。レンズ加工技術の原点。

昭和45年頃 東洋電子工業株式会社

ファインダー組立専門工場としてスタート。精密組立技術への挑戦が、現在の電子・光学分野につながる。



昭和50年頃 東洋精機工業 夏祭り

裏駐車場で開催された夏祭り。櫓を組み、盆踊りや抽選会で社員と家族が集い、会社の一体感を育む行事。



豊川進雄神社 夏祭り

～つながる地域 広がる絆～

7月17日(金)～19日(日)の3日間、豊川市の豊川進雄神社にて「令和8年度例大祭」が開催されました。

光学ユニット製造部

二年連続で青年団をまとめる年番長を務めたことで、人として成長できたと感じています。祭りで花火を上げるだけでなく、様々な方々との繋がり、協力があってこそのお祭りだと改めて実感しました。来年度が青年団としての最後の年になりますが、6年間の集大成として全力で盛り上げていきます。



元気をシェア!

期待の若手が選ぶ 推しミュージック

期待の若手メンバー3名に毎日のパワーの源になっている「推しミュージック」をお聞きました。音楽の力で夏を元気に乗り切る、それぞれのこだわりの一曲は必見です!

財務管理部

■推し曲
「Love Situation」
■アーティスト名
嵐

推しポイント

お出かけ前の準備中に聴くと、幸せな気持ちで待ち合わせへ向かう歌詞に共感し、お出かけへの期待が高まります。

製造技術部

■推し曲
「すれ違い」、「To my 17」
■アーティスト名
Soala

推しポイント

Soalaの歌声と、彼女自身の景観を綴った心に響く歌詞に共感しています。そして顔がかわいいところも魅力です!

購買部

■推し曲
「Meteor - ミーティア -」
■アーティスト名
T.M.Revolution

推しポイント

この曲のイントロを聴くとテンションが上がるので通勤時によく聴いています。

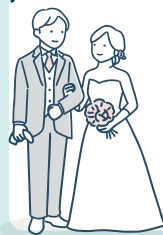


献血のおねがい

日 時：9月29日(火) 9時～11時30分
受 付：トヨタ管理棟面談室
献血車：トヨタ管理棟 南側駐車場

Happy Wedding

ハッピーウェディング



お悔やみ申し上げます

発行所

トヨタサークル 人財開発部・TOCOM 事務局
豊川市西豊町二丁目 35 番地
TEL 0533-85-1110(代表)